

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	934 ふれあいの里維持管理経費	会計	01	一般会計
		款	02	総務費
		項	01	総務管理費
基本施策	44 資源ともてなしの心を活かし、観光を振興する	目	06	企画費
		細目	123	ふれあいの里維持管理事業
行革大綱の重点事項番号		細々目	01	ふれあいの里維持管理経費
担当部課	コード	600100		担当者氏名
	名称	鳥ヶ原振興課		
		南	朋子	連絡先
				59 - 2053 (内線) 61

事務事業の概要 (Plan)

対象(誰を、何を)	施設(野外施設も含む) 鳥ヶ原ふれあいの里を利用する観光客等	※対象件数
成果(どうする)	良好な状態で安全・快適に利用される。増加する。	
根拠法令・要綱等		
開始年度	平成	年度
終了年度	平成	年度
関連事業		
H21 事業内容	施設の管理運営を指定管理者しまがはら郷づくり公社に委託し、施設の効率的な運営及び健全経営に努めた。特にふれあいセンター棟や野外施設の旧施設は十数年を経過しており、老朽化しつつあるため、空調設備や外壁の塗装修繕工事、改修工事を実施した。	
社会情勢の変化	平成22年4月から引き続き「しまがはら郷づくり公社」が指定管理者となり管理運営をしている。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積(延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	しまがはら郷づくり公社
2 配置人員	人
3 年間運営費	36,860 千円
4 市内の類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
修繕箇所数		件	目標	2	2	2
			実績	0	13	
開館日数		日	目標	316	316	313
			実績	316	313	313

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
温泉の利用者数		鳥ヶ原温泉がどの程度利用されているか入込客数で計る。	人	目標	193,000	193,000	161,000
				実績	167,436	167,349	161,000
健康づくり施設利用者数		健康づくりの場としてどの程度活用されているか利用者数で計る。	人	目標	20,000	20,000	20,000
				実績	24,724	27,330	20,000

投入コスト	H20 決算		H21 決算		H22 当初予算		H23 当初要求	
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	
直接事業費計(A)	34,772	36,860	35,272	35,272				
Aの財源内訳	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他	0	0					
一般財源	34,772	36,860	35,272	35,272				
事業投入人件費(B)	0.1人	720	0.1人	720	0.1人	720	0.1人	
フルコスト(A)+(B)	35,492	37,580	35,992	35,992				

事務事業の評価 (Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	○
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		
【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		
	財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業	
【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高サービス水準や対象を見直す余地がある。	○
達成度	当初設定した計画を 80%以上100%未満 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】 予算の繰越の有無 有 【予算の繰越がある場合、繰越の種別】 繰越明許費	
効率性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。【事業名】 受益者負担を求めることができる事業である。全体コストにおける負担構成は適正である。コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	○

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	修繕工事を実施し、施設環境を整える一方、誘客を図りながらコスト削減に努める。来年度には有識者、公募委員等による検討委員会を設置する予定である。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいない 【詳細】 庁内でのあり方検討委員会を設置し、温泉施設のあり方について検討を実施している。

今後の方向性 (Action)

担当課長氏名	増永 由美
【方向性】	現状維持
【理由】	引き続き施設の管理運営を委託し、誘客を図りながらコスト削減に努める。
現時点における課題、その他	自然災害(落雷)により、施設等の破損が発生し修繕工事をしなければならない。安全対策については、23年度当初予算に計上し対処致したい。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	温泉施設利用者が増加するよう、23年度から更に営業活動の取り組みをしたい。